



27 刺繍獅子図屏風 高島屋飯田貿易店 四曲一隻

大正八年(一九一九)
織・刺繍・木製漆塗 総一七三・〇×二九八・〇

草原を走り行く雌雄のライオンを、刺繍によって表した作品である。背景の描写は抽象的に簡略化され、本図の主題であるライオンの描写を強調するように、細緻で念入りな刺繍はライオンに集中して施される。刺し繍を中心とした巧みで精緻な刺繍によって、写実性に富んだ、迫力あるライオンを表現している。明治期に刺繍の技を美術染織として高めた飯田新七の伝統を受け継ぐ高島屋による作品である。大正八年の皇太子(昭和天皇)御成年式にあたり、その御祝いとして京都市より献上された作品であるが、時代を担う若き皇太子の前途を祝しての威風堂々とした気品にみちた装飾品として選ばれたものであろう。

ところで、本図の画風表現と近い「ライオン雌雄図」の下図が高島屋史料館に現存し、その作者が神坂松濤(一八八二〜一九五四)と知られる。松濤は、明治期から昭和前期に画家として、また図案家として活躍した神坂雪佳(一八六六〜一九四二)の弟で、京都市立美術学校で後進の指導に当たったほか、高島屋で染織作品の下絵を描いていた。その下絵に見られる写実性に富んだ細緻な描写は、本作品の刺繍によって表された表現に共通性を認めることが出来る。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

虎・獅子・ライオン

— 日本美術に見る勇猛美のイメージ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 51

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年七月十七日発行

© 2010 The Museum of the Imperial Collections